

【大人向け】

はじめてのものがたり

～絵本から物語へ～



4歳ぐらいから小学校低学年ぐらいの子どもが楽しめる幼年文学を、56冊、ご紹介します。

特に、絵本から本へ、ステップアップする時期の子どもたちにおすすめの本です。

小さな子や本を読みなれない子には、大人が声に出して読んであげてください。

一人で本を読める子でも、まずは大人が読んであげると、本の世界に入っていきやすくなります。

タイトル	作者	出版社	 
<p>例)  表紙</p> <p>あらすじ</p> <p>☞シリーズなどの紹介</p>	<p>マークは難易度のおおよその目安です</p> <p> =字が大きく、本に慣れていない子でも読みやすい本</p> <p> =まずは大人が読んであげたい本(読みなれている子なら一人で読める本も含みます)</p>		<p> </p> <p>図書館からのコメント</p>
1 あおい目のこねこ	エゴン・マシーセン／作・絵 瀬田貞二／訳	福音館書店	
	<p>あおい目のこねこは、ネズミの国を探しに出かけます。なかなか見つかりませんが、元気なこねこはめげません。ある日、きいろい目をしたねこたちと出会います。</p>		<p>絵が多く短いお話なので最初の一步にピッタリ。ポジティブなこねこにはげまされます。</p>
2 1ねん1くみ1ばんワル	後藤竜二／作 長谷川知子／絵	ポプラ社	 
	<p>くろさわくんは、1ねん1くみで1ばんのワル。すべり台を自転車でかけおりて、うでをおった。「ぼく」は、くろさわくんのことをこまるやつだと思っていたけれど…。</p> <p>☞シリーズあります 「1ねん1くみシリーズ」全25巻</p>		<p>型破りなくろさわくんが魅力的。シリーズで読む子も多いです。</p>
3 いやいやえん	中川李枝子／作 子どもの本研究会／編 大村百合子／絵	福音館書店	
	<p>いたずらっ子のしげるがかようのは、ちゅーりっぷほいくえん。みんなでくじらとりにいたり、こぐまがやってきたり、おもしろいことが、たくさんおこります。7つの楽しいお話がはいっています。</p>		<p>親から子へ、長く読み継がれている童話集。日常からつながるファンタジーの世界にわくわくします。就学前の子に読み聞かせてあげるのもおすすめです。</p>

4 エルマーのぼうけん	ルース・スタイルス・ガネット／作 ルース・クリスマン・ガネット／絵 渡辺茂男／訳	福音館書店	
 <p>エルマーは、とらわれている、かわいそうなりゅうの子を救いに、どうぶつ島にむかいます。島には、おそろしい猛獣たちがいますが、エルマーはリュックにいられた道具と知恵をつかって危険をのりこえ、りゅうの子を救いだします。</p> <p>⑤エルマーとりゅうが家に帰る途中の冒険『エルマーとりゅう』、りゅうの家族を救うために、ふたたびエルマーが旅立つ『エルマーと16ぴきのりゅう』の3部作。</p>			<p>幼年文学の傑作。スリルあるたくみなストーリーに、子どもは夢中になります。1冊目を読むと、2冊目・3冊目と続けて読む子が多いです。長さはあるので、まずは、大人が少しずつ読み聞かせてあげるのがおすすめです。</p>
5 おおきな おおきな おいも	赤羽末吉／作・絵	福音館書店	
 <p>幼稚園のいもほり遠足が、雨で延期になって、楽しみにしていた子どもたちはがっかり。でも、みんなで、とっても大きなおいもの絵をかきました。どれくらい大きいかって、それはね…</p>			<p>絵が多く短いお話なので最初の一步にピッタリ。ダイナミックなおいもの絵は、一見の価値あり。</p>
6 おさらをあらわなかったおじさん	フィリス・クラジラフスキー／文 バーバラ・クーニー／絵 光吉夏弥／訳	岩波書店	
 <p>おじさんは、ある日、ごはんを食べたあと、面倒でおさらをあらいませんでした。つぎの日も、そのつぎも。おさらがなくなると、せっけん入れや、灰皿で食べました。家の中は、もう、めちゃくちゃ。</p>			<p>絵が多く読みやすい本。どうなっちゃうの？と続きが気になるはず。</p>
7 おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ	J・ロッシュ＝マゾン／作 山口智子／訳 堀内誠一／画	福音館書店	
 <p>リスのゲルランゲは、おそうじがきらいでいじっぱり。おそうじをしないので、リスの家をおいだされます。森の中で、オオカミに出会って、食べられそうになりますが…。</p> <p>⑤つづきがあります 「けっこんをしたがらないリスのゲルランゲ」</p>			<p>何があっても、「おそうじをおぼえたくない」と言いはるゲルランゲ。そんな子、いるのでは？ やや長めのお話なので、まずは大人が読んであげたい本。</p>

8	きえた犬のえ ぼくはめいたんてい	マージョリー・W・シャーマット/ 文 マーク・シーモント/絵 光吉夏弥/訳	大日本図書  
 <p>ネートは名探偵。ともだちのアニーがかいた犬の絵がなくなつた！ ネートは、ばつぐんの推理力で、絵を見つけ出します。</p> <p>☞ネートのお話は「ぼくはめいたんてい」シリーズになっています。全17巻。</p>		<p>男の子が、近所の事件を解決。字が大きく、明快ななぞとときで、読みやすいです。気に入ったらシリーズもぜひ。</p>	
9	きょうりゅうくんとさんぼ	シド・ホフ/作 いぬいゆみこ/訳	ペンギン社 
 <p>博物館にいったダニー。なんと、博物館のきょうりゅうが、話しかけてきました。ダニーはきょうりゅうといっしょに町にでかけ、楽しくあそびます。</p>		<p>恐竜の好きな子におすすめ。絵が多いので、読みなれない子でも大丈夫。</p>	
10	金のがちょうのほん - 四つのむかしばなし -	レズリー・フルック/文・画 瀬田貞二・松瀬七織/訳	福音館書店 
 <p>みんなにばかにされていた末息子は、森で小人をたすけます。そのお礼にふしぎな金のがちょうをもらいました。</p> <p>「金のがちょう」「三びきのくま」「三びきのこぶた」「親ゆびトム」の4つの昔話のついでに。</p>		<p>いきいきとした美しい絵が楽しいです。原話に忠実なお話。昔話の醍醐味が味わえます。</p>	
11	くしゃみくしゃみ天のめぐみ	松岡享子/作 寺島龍一/画	福音館書店 
 <p>「はくしゃん」とよばれる若者は、くしゃみが大きいおかげで、長者のおこになりました。ほかに、しゃっくりがとまらなかつたり、いびきがすごかったりする主人公がでてくるお話が、5つはっています。</p>		<p>昔話風の、のびやかなユーモアあふれる童話集。</p>	
12	くまの子ウーフ	神沢利子/作 井上洋介/絵	ポプラ社 
 <p>くまの子のウーフは、いろんなことを考えるのが好きな男の子。ある日、きつねに「ウーフはおしっこを出すから、おしっこでできてんだ」と言われてしまいます。「ウーフはおしっこでできてるか？」ほか、9つのお話があります。</p> <p>☞つづきがあります 「こんにちはウーフ」「ウーフとツネタとミミちゃん」と</p>		<p>ウーフは、世界にまっすぐ向き合う子どもの姿そのもの。1話ずつ、子どもに読んであげてもいいですね。</p>	

13	黒ねこのおきゃくさま 	ルース・エインズワース／作 荒このみ／訳 山内ふじ江／絵	福音館書店	
<p> 昔、一人のまずしいおじいさんがいました。とても寒い雨の晩、1匹のやせた黒ねこが、おじいさんのうちにやってきました。おじいさんは黒ねこに、やさしく親切にしてやります。するとふしぎなことがおこりました。 </p>		<p> 冬に、子どもといっしょに読みたいお話。あたたかい結末に満足。 </p>		
14	けんた・うさぎ	中川李枝子／作 山脇百合子／絵	のら書店	
<p> ある朝、けんた・うさぎは、Tシャツに足をつっこみ、ズボンをお頭にかぶりました。おはようのかわりに「こんばんは」、おなかへっているのに「おなかいっぱい」と言います。「あべこべ・うさぎ」など、6つの短いお話がはっています。 </p>		<p> 大人の思いもよらないことをするけんた・うさぎへの両親の対応が素敵。就学前の年齢の子に読み聞かせても。 </p>		
15	こうさぎのあいうえお	森山京／作 大社玲子／絵	小峰書店	
<p> 「うさぎ」という字が書けるようになったこうさぎは、友だちのきつねに、きつねの「き」という字を教えます。字をおぼえたばかりのこうさぎたちの、5つの楽しいお話。 </p>		<p> ひらがなをおぼえて書きはじめたころの子どもたちに、ぴったりなお話。 </p>		
16	こぐまのくまくん	E・H・ミナリック／文 モーリス・センダック／絵 松岡享子／訳	福音館書店	
<p> とってもさむい日、くまくんはおかあさんにたのんで服をきせてもらいますが、まださむがって「ぼく、けがわのマントがほしい」といいます。「くまくんとけがわのマント」ほか、全部で4つのお話。 </p> <p> つづきがあります 「かえてきたおとうさん」「くまくんのおともだち」「だいじなとどけもの」「おじいちゃんとおばあちゃん」全5巻 </p>		<p> 絵が多く、短いお話なので読みやすいです。話にあった絵も魅力的。 </p>		
17	こども世界の民話 上・下	内田莉紗子・君島久子・山内清子／著 鈴木悠子／画	実業之日本社	
<p> 「やぎとライオン」「マメ子と魔もの」「アナンシと五」など、いろいろな国の、ふしぎな話、おもしろい話がたくさんはっています。 </p> <p> 「子どもに聞かせる世界の民話（実業之日本社）から話をえり抜き、子ども向けに字を大きくし挿絵を入れたもの。 </p>		<p> 昔話（民話）の楽しさが味わえます。子どもに読んであげてください。内容が中～高学年向けの話もあります。 </p>		

18	ジェインのもうふ	アーサー=ミラー／作 アル=パーカー／絵 厨川圭子／訳	偕成社	
		ジェインには、赤ちゃんのときからお気に入りの、ピンクのもうふがありました。「あたしのもーも」とよんで、いつでもいっしょでした。やがて、ジェインは大きくなり、もうふとの別れの時がやってきます。		劇作家ミラーが子どものために書いたお話。ラストのお父さんの言葉がいいです。忘れがたい印象を残す本。
19	ジェニーとキャットクラブ 黒ねこジェニーのおはなし1	エスター・アベリル／作・絵 松岡享子、張替恵子／共訳	福音館書店	
		ジェニーは内気な黒ねこです。近所のねこがはいるキャット・クラブに入りたいのに、特技がないから入れないと、にげかえってしまいます。でも、そんなジェニーには、すばらしい特技があったのです。 ④「黒ねこジェニーのおはなし」は「ジェニーとキャットクラブ」「ジェニーのぼうけん」「ジェニーときょうだい」の全3巻です。		やや長いので、大人が読み聞かせてあげてください。内気なジェニーに子どもは共感します。おしゃれな絵も素敵。
20	ジोजオのパンやさん	岸田衞子／作 中谷千代子／画	あかね書房	
		らいおんのジोजオが、パンやさんをひらきました。どうぶつむらのどうぶつたちは、ジोजオのパンが大好きです。 ④ジोजオがでてくる本には、「ジोजオのたんじょうび」、絵本「ジोजオのかんむり」があります。		字が大きくて、読みなれない子にも読みやすいです。味のある絵も魅力的。
21	たんたのたんけん	中川李枝子／作 山脇百合子／絵	学研プラス	
		今日は、たんたの誕生日。ふしぎな地図がまいこんで、たんたは、探検に出発します。 ④つづきがあります 「たんたのたんてい」郵便受けに新聞を取りに行った、たんたが見つけたのはへんなチューブ。なぜをとくために、たんたはたんていになります。		続きが気になってどんどん読む子が多いです。2冊シリーズですが、それぞれ1冊でも楽しめます。
22	チム・ラビットのぼうけん	A・アトリー／作 石井桃子／訳 中川宗弥／画	童心社	
		げんきなうさぎの男の子チムは、ある日、はさみを見つけます。なんでも切れて楽しくなったチムは、自分の毛を短くかかってしまいました。「チム・ラビットとはさみ」ほか、9つの楽しいおはなし話。 ④つづきがあります 「チム・ラビットのおともだち」		子どもでは読めない厚い本ですが、内容は小さな子にぴったり。大人が読んで届けてあげたいお話です。

23	どれみふあけろけろ	東君平／作・絵	あかね書房	
		<p>たっくんはおよぐのがにがて。プールのある日は、学校に行きたくありません。ある日、「かえるになりたいなあ」とつぶやいたら、かえるの学校を見つけました。たっくんも生徒になって、およぎ方や、うたい方をならいます。</p>		<p>字が大きくて、読みやすく、はっきりした絵も素敵。子どもの気持ちによりそってくれる本です。</p>
24	どろんこ こぶた	アーノルド・ローベル／作 岸田衞子／訳	文化出版局	
		<p>おひやくしょうさん夫婦は、こぶたをかわいがっていました。こぶたは、どろんこがなによりも好き。ところが、ある日、おかみさんがどろをそうじしてしまいます。おこったこぶたは、家出をしました。</p>		<p>ユーモアあふれるお話。読みられない子も、これなら大丈夫。途中、こぶたの行動に大人もハラハラします。</p>
25	なぞなぞのすきな女の子	松岡享子／作 大社玲子／絵	学研プラス	
		<p>なぞなぞがだいすきな女の子。いっしょになぞなぞをしてくれる相手をさがしに森に行き、はらぺこオオカミと出会います。</p> <p>◎シリーズがあります 「じゃんけんのすきな女の子」</p>		<p>なぞなぞが好きになる年齢の子にピッタリ。最後のオチもきいています。</p>
26	はじめてのキャンプ	林明子／作・絵	福音館書店	
		<p>なほちゃんは、小さい女の子。大きい子たちといっしょにキャンプに行きたいのですが、「ちっちゃいこは、だめ！」と言われてしまいます。でも、一人で重いにもつもてるし、暗い外におしっこにも行ける！と言って、つれていってもらいました。さて、大丈夫かな？</p>		<p>絵が多く、読みやすい本。大きい子の中でがんばる主人公に、子どもは共感します。</p>
27	ばん 番ねずみのヤカちゃん	リチャード・ウィルバー／作 松岡享子／訳 大社玲子／絵	福音館書店	
		<p>ドドさん夫婦の家には、おかあさんねずみと4匹の子ねずみが、人間に見つからないように、こっそり住んでいました。4匹めは、とっても声が大きいやかまじのヤカちゃん。どうしても、静かにすることができません。でも、そのヤカちゃんが、どろぼう相手に大活躍します。</p>		<p>長さはありますが、楽しいので、子どもがとてよく聞きます。まずは、大人が読んであげるとよい本。</p>

28	ふくろうくん	アーノルド・ローベル／作 三木卓／訳	文化出版局	 
		ひとり 一人でくらしている、ふくろうくん。ある日、家の1階と2階に どうじ 同時にいられる方法はないかと考えます。「うえとした」など、 ちょっと変わったふくろうくんの5つのお話し。		独特な味わいのあるお話し。「なみだのおちゃ」をいれるふくろうくん、大人にも響きます。
29	ふしぎなたいこ	石井桃子／文 清水崑／絵	岩波書店	 
		げんごろうさんは、ふしぎなたいこをもっていました。たいこを たたいて、「はな たかくなれ」というと、鼻がどんどんのびる のです。ある日、どこまで鼻がのびるのか、げんごろうさんはた めしてみたくになりました。 ほかに、「かえるのえんそく」「にげたにおうさん」のお話しも いっています。		ストーリーテリング（素話）にもよく使われる、おおらかで楽しい日本の昔話。
30	ふたごのでんしゃ	渡辺茂男／作 堀内誠一／絵	あかね書房	
		「ベンケイ」と「うしわか」は、ふたごの電車。いつも、2台は げんきに、お客さんをのせて走っていました。ところが、しだいに まちには車がふえて、とうとう、電車が廃止されることになってし まいます。		電車が好きな子におすすめ。ベンケイとうしわか、江ノ電ににてるかも？ ハッピーエンドにうれしくなります。
31	ふたりは ともだち	アーノルド・ローベル／作 三木卓／訳	文化出版局	 
		がまくんとかえるくんは、なかよしの友だち。がまくんのため に、かえるくんが手紙を出す「おてがみ」ほか、2匹の楽しいお 話しが、5つ入っています。 👉 つづきがあります 「ふたりは いっしょ」「ふたりは いつ も」「ふたりは きょうも」の全4巻		教科書で知っているという人も多いかもかもしれません。どのお話しも面白いです。二匹のユーモラスなやりとりは、おかしくてどこか哲学的。
32	プーのはちみつとり はじめてのプーさん	A. A. ミルン／文 E. H. シェパード／絵 石井桃子／訳	岩波書店	
		クマのプーさんは、ハチの巣に近づいて、ハチミツを取ろうとが んばります。風船にぶらさがってみたけれど、うまくいくでし ょうか？ 👉 「はじめてのプーさん」というシリーズで、「プーのはちみつ とり」「プーあそびをはつめいする」「イーヨーのあたらしい うち」の3冊があります。		有名なプーの原作を、読みやすいように1話で1冊の絵本にしたもの。絵も素敵。長いけれど、口に出すと意外に楽しく読めます。

33	クマのプーさん プー横丁に たった家	A. A. ミルン／作 E. H. シェパード／絵 石井桃子／訳	岩波書店	
		プーさんのお話が気に入った子には、こちらの本もおすすめで す。プーさんとなかまたちのお話が、たくさんはっています。 ③「クマのプーさん」「プー横丁にたった家」の2冊に分かれて 文庫もでています。		この本には、プー のお話が全部入っ ています。大人が 子どもに読んであ げる本です。
34	ふらいぱんじいさん	神沢利子／作 堀内誠一／絵	あかね書房	
		ふらいぱんじいさんは、子どもたちのために目玉やきを焼くのが 大好きでしたが、新しいなべがきたせいで、もう焼かせてもらえ なくなってしまいます。そこで、旅に出ることにしました。ジャ ングルや砂漠を旅するじいさん。はたして、どうなるのでしょ うか？		新しい世界に旅 立ったじいさんは 大冒険をします。 意外で幸せな結末 に、心があたたか くなります。
35	みどりいろのたね	たかどのほうこ／作 太田大八／絵	福音館書店	
		まあちゃんのクラスで、畑に種をまくことになりました。ところ が、まあちゃんは、種といっしょに、メロンあめをうめてしま います。土の中では、メロンあめと種がけんかしますが…。		絵が多いので、読 みなれない子でも 大丈夫。最初の一 歩におすすめ。
36	ミリー・モリー・マンデー のおはなし	ジョイス・L・プリスリー／作 上條由美子／訳 菊池恭子／絵	福音館書店	
		小さな村に、ミリー・モリー・マンデーは、おじいちゃん、おば あちゃん、おとうさん、おかあさん、おじさん、おばさんといっ しょに住んでいます。パーティに行ったり、お店番をしたり、1 2の楽しいお話が入っています。 ③つづきがあります 「ミリー・モリー・マンデーとともだち」		ささやかな、で も、子どもにとっ てはわくわくする 出来事が書かれ、 子どもが自然に共 感できます。読み 聞かせれば、就学 前の子も喜びま す。
37	ものぐさトミー	ベーン・デュボア／文・絵 松岡享子／訳	岩波書店	
		トミー・ナマケンボは、ひどいなまけもの。電気じかけの家に住 んで、お風呂にはいるのも、ごはんを食べるのも、ぜんぶ機械に やってもらっています。ところがある日、電気が止まってしま いました。		「こうなるので は」という予想を こえる展開がまっ ています。おかし くて笑ってしまう お話。

38 ももいろのきりん	中川李枝子／作 中川宗弥／絵	福音館書店	
	<p>るるこは、おかあさんから、とっても大きなももいろの紙をもらいました。るるこはそれできりんのキリカを作ります。キリカはしゃべって動き出し、るることいっしょにクレヨンの木のある山に冒険に出かけます。</p>		<p>出だしにわくわく。やや長いので、まずは大人が読んであげたい本。印象に残る作品。</p>
39 もりのへなそうる	渡辺茂男／作 山脇百合子／絵	福音館書店	
	<p>てつたくんとみつやくんの兄弟は、森に探検に出かけて、大きなたまごをみつけます。つぎの白、森には、赤と黄色のしましまの、へんな動物がいました。その動物は、自分は「へなそうる」だと言います。</p>		<p>就学前の子に、大人が読んであげたいお話。おかしなへなそうるは、子どもの特別な存在になります。</p>
40 ロッタちゃんのひっこし	アストリッド＝リンドグレーン／作 山室静／訳 イロン＝ヴィークランド／絵	偕成社	
	<p>ある日、ロッタちゃんはいやな夢をみました。とってもきげんが悪くなったロッタちゃんは、ママにやつあたりして、おとなりのおうちの物置にひっこしします。</p> <p>『ロッタちゃんの本はほかに「ちいさいロッタちゃん」、絵本「ロッタちゃんとしてんしゃ」「ロッタちゃんとクリスマスツリー」があります。</p>		<p>ロッタちゃんが面白くて笑ってしまいます。周囲の大人の対応も素敵。</p>
41 ロボット・カミイ	古田足日／作 堀内誠一／絵	福音館書店	
	<p>たけしとようこは、ダンボールの箱でロボットを作り、カミイとなづけました。するとカミイはしゃべって動きだします。たけしたちの幼稚園にかよいますが、わがままでなき虫のカミイは、問題ばかりおこします。</p>		<p>やや長いので、まずは大人が読んであげたい本。わがままで泣き虫、でもへこたれないカミイが魅力的。</p>



『ゆかいなゆかいなおはなし』 シリーズ		字が大きくて読みやすく、楽しいお話ばかりなので、ひとり読みをはじめて子にぴったりのシリーズです。まとめてご紹介し ます。		
42	あべこべものがたり	北欧民話 光吉夏弥／再話 箕田源二郎／絵	大日本図書	
		フリツルさんは、畑仕事より、おかみさんがやる家の仕事の方 が、らくじゃないかと文句を言います。そこで、仕事をとりかえ ることにしました。すると、大変なことに。		ゆかいな民話。ど んどん大変なこと になるのがおかし い。
43	うさぎがいっぱい	ペギー・パリシュ／文 レオナード・ケスラー／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
		モリーおばさんのうちに、大きなうさぎが1匹、とまります。 朝、うさぎがたくさん産まれていました。うさぎはどんどん増 えて、家はうさぎでいっぱいに。さて、おばさんはどうしたで しょう？		ラストにくすり。 ユーモアあるお 話。
44	おう 王さまのアイスクリーム	フランスス・ステリット／文 土方重巳／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
		アイスクリームって、どうやってできたんでしょう？ 昔、ある 気むすかしい王さまがいて、暑い日にも、冷たいクリームをほし がりました。こまるコックに、むすめが知恵をかします。		アイスクリームの 成り立ちを童話風 にした楽しいお 話。
45	おとこの子とおもっていた犬	コーラ・アネット／文 ウォルター・ロレイン／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
		ピーターは誕生日に、ラルフという子犬をもらいました。ラルフ は自分は男の子だと思いこみ、立って歩き、テーブルでごはんを 食べます。とうとう、学校にも行ってしまいます。		ラルフが学校で ピーターよりも良 い成績をとって くるなど、ユーモア あるお話。結末も いいです。
46	しろいいぬ？くろいいぬ？	マリオン・ベルデン・クック／文 池田龍雄／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
		ワググルズは、やどなしの白い子犬。犬とりにねらわれ、おい かけられますが、石炭やペンキで色を変えて、上手に、にげまわ ります。最後には、やさしいおくさんにひろわれました。		さまざまな方法で 体の色を変えてい くワググルズ。繰 り返しを子どもは 楽しめます。

47	すずめのくつした	ジョージ・セルデン／文 ピーター・リップマン／絵 光吉郁子／訳	大日本図書	
 <p>アンガスの家は、くつした工場。でも、ちかごろ、アンガスの家のくつしたは売れません。ある日、アンガスは、さむそうなすずめにきれいなくつしたを作^{つく}ってあげます。すると、ほかのすずめも同じくつしたをほしがってやってきました。</p> <p>さわやかで心あたたまる話。靴下を作る機械の絵は、見ているとわくわくします。</p>				
48	ちびっこ大せんしゅ	シド・ホフ／文・絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
 <p>ハロルドは、リトル・リーグでいちばん小さい男の子。いつもみんなにばかにされています。でも、シーズン最後の試合で、ピンチヒッターにえらばれました！</p> <p>大きな子たちに馬鹿にされても、めげずにがんばるハロルド。ラストは爽快。</p>				
49	でっかいねずみとちっちゃなライオン	イブ・タイタス／文 レオナード・ワイスガード／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
 <p>人間の世界を見に行ったねずみとライオンは、妖精の力で、人間からは大きなねずみと、小さなライオンに見えるように、魔法をかけられてしまいます。人間たちは、大さわぎ。</p> <p>魔法をかけられたことに気づかないねずみとライオンの反応がおかしいです。</p>				
50	トミーは大いそぎ	ヘレン・パーマー／文 赤坂三好／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
 <p>トミーは、市長さんあての大事な手紙をとどけるようにたのまれました。タクシー、消防車、オートバイなど、いろんな乗り物のりかえながら、市長さんをおいかけます。</p> <p>たくさん出てくる乗り物が楽しいです。最後にはあっとおどろくものでできますよ。</p>				
51	ともだちができちゃった！	セラ・アシャロン／文 スーザン・パール／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
 <p>新しい家にひっこすことになったペニーは、近所に友だちが見つけれられるか心配で、おちこんでいました。ひっこしの後、飼っている犬のレックスがいなくなってしまう。</p> <p>新しい環境で友だちができるかは、子どもにとっては一大事。ペニーの不安に共感する子ども多いのでは。</p>				

52	とらとおじいさん	アルゼン・トレセルト／文 アルバート・アキノ／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
		<p>おじいさんは、ジャングルでとらをオリから出してやりますが、とらはおじいさんを食べてしようとします。木や牛に相談しますが、「食べられるといい」と言われてしまいます。おじいさんは、このまま、とらに食べられてしまうのでしょうか？</p>		<p>脚本形式のお話。子どもと役をわけて読みあっても楽しそうです。</p>
53	なんでもふたつさん	M・S・クラッチ／文 クルト・ピーゼ／絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
		<p>なんでも2つもたないと、気がすまない「なんでもふたつ」さん。帽子も、服も、家も仕事も、ぜんぶ2つずつ。むすこのピーターは、そんなパパのくせをやめさせようと、ある作戦をたてますが…。</p>		<p>奇想天外でナンセンス。ユニークなお話。</p>
54	りすのスージー	ミリアム・ヤング／文 アーノルド・ロベル／絵 光吉郁子／訳	大日本図書	
		<p>りすのスージーは、あばれんぼうのあかりすたちに、大切な自分の家をとられてしまいます。こまったスージーは人形の家で、おもちゃの兵隊たちとくらしはじめました。</p>		<p>スージーのためにがんばる兵隊がかっこいいです。</p>
55	わたしのおかあさんは 世界一びじん	ベッキー・ライアー／文 ルース・ガネット／絵 光吉郁子／訳	大日本図書	
		<p>ワーリヤはおかあさんとはぐれて、迷子になってしまいました。「わたしのおかあさんは世界一びじん」というワーリヤの言葉で、村中から美人のおかあさんがよびあつめられます。</p>		<p>ウクライナを舞台にした心あたたまのお話。素敵なことわざを元にしています。</p>
56	わにのはいた	マーガレット・ドリアン／文・絵 光吉夏弥／訳	大日本図書	
		<p>動物園でくらす、わにのアリは、歯がいたくなって歯医者さんに行くことになりました。でも、こわくて、バスで出会った男の子の家に行ってしまう。歯はどんどんいたくなってくのに、どうしましょう。</p>		<p>歯医者をこわがるアリに子どもは共感するはず。お話にぴったりの絵も楽しいです。</p>

保護者の方・子どもの読書に関わる方へ

このリストでは、小学校低学年くらいの子が自分で読める本だけでなく、大人が読んであげてほしい本も紹介しています。これを見て、「一人で字が読めるのに、まだ大人が読まないといけないの?」と、思う方もいるかもしれません。

たとえば、字を読むことができたとしても、物語を読んで楽しむことはまだ難しかったりします。また、たくさん本があっても、中々、子どもは知らないものに手を出さなかったりもします。

子どもは、大人に読んでもらって楽しかった本を、自分で読んでみようとしています。

1冊の本を、毎日、寝る前に少しずつ、読んであげるだけでいいのです。

ぜひ、大人の手で、子どもに本の世界のとびらを開いてあげてください。

リストの中に、子どもの時、自分が好きだった本を見つけた方もいるかもしれません。子どもの心をとらえる本は、内容が古びることはなく、時代をこえて子どもに支持されます。このリストでは、子どもに愛され続けているロングセラーの本を選びました。

もし、1冊でもお気に入りの本が見つければ、その子にとって一生の宝になります。そして、その本を子どもと楽しんだことは、大人にとっても、素敵な思い出となります。

子どもに本を読んで、楽しい時間をすごしてみませんか?

はじめてのものがたり ~絵本から物語へ~

令和2年(2020年) 8月1日 発行
茅ヶ崎市立図書館/編集・発行

〒253-0053
神奈川県茅ヶ崎市東海岸北一丁目4番55号
電話 0467-87-1001
FAX 0467-85-8275

